

# 1 自己評価及び外部評価結果

## 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2470100716		
法人名	医療法人社団青藍会		
事業所名	グループホーム 竹の子苑		
所在地	桑名市大字西方斧峠1306-10		
自己評価作成日	平成21年7月24日	評価結果市町村提出日	平成21年12月25日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://kaigos.pref.mie.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=2470100716&amp;SCD=320">http://kaigos.pref.mie.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=2470100716&amp;SCD=320</a>
----------	---

## 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 三重県社会福祉協議会
所在地	津市桜橋2丁目131
訪問調査日	平成 21 年 9 月 4 日

## 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<ul style="list-style-type: none"> <li>医療連携があり、利用者の健康管理や医療面での対応サービスには、家族の方からも喜んで頂いている。</li> <li>参加可能な利用者による乗馬クラブへの支援を家族の理解と同意を得て行っているが、今後も取り組みを続けていきたい。</li> <li>月2回の夕食支援は利用者、家族にも好評であり、今後も継続していきたい。</li> </ul>
---

## 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>母体医療法人青木内科にも直ぐ近く、介護老人保健施設ハート敷地内の一角に位置している。周囲は竹林が広がり、緑豊かな自然に恵まれた環境である。1階(竹の宿)と2階(笹の宿)の2ユニットの明るい色調の建物は利用者全員が集える広い共有スペースや清潔な居室は穏やかで安心して暮らせる工夫や配慮が随所に見られる。グループホーム竹の子苑の理念『尊厳・安らぎ・喜び・安心・笑顔』を実践し、地域医療・福祉に永年熱意をもって取り組んでいる運営者と管理者のもと職員の質とレベルの均一化を目指し可能な限り住みなれたホームで暮らし続け尊厳あるケアを受けられるように支援している。昼食時、『此処はみんな優しく良い所よ』と話された今年100歳になる利用者を見守る職員の会話やまなざしはとても優しく利用者一人ひとりと信頼関係を感じられた。日常的に主治医や看護師の訪問があり医療面での安心や身体者乗馬クラブへの外出や夕食など楽しみごとの多い安らぎのある穏やかな事業所である。</p>
---

## V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

# 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	・日常の関わりの中で、利用者への声かけは常に理念を実践につなげている	グループホーム竹の子苑の理念『尊厳・安らぎ・喜び・安心・笑顔』を基本に自然豊かな環境のもとでゆったりと安らかに過ごせるように地域密着型サービスの意義を踏まえて管理者・職員ともに共有し実践につなげている	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	・立地条件に恵まれていない為、地域の人との交流は難しい	商業地に隣接しているために住宅は少なく地域とのつながりは難しい環境である。隣接の老健ハート利用者やボランティアの方がたとの交流・小学生の訪問など利用者が地域と繋がりがながら暮らし続けるように配慮し支援している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	・地域の人々に向けての取り組みは、出来ていない		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	・運営推進会議の中でホームでの取り組みや報告をおこない、意見交流を通してサービスの向上に活かすよう努めている	7月9日に第13回目の運営推進会議を桑名市介護高齢福祉課・北部地域包括支援センター・自治会長・民生委員・家族代表が参加して緊急時・災害時対策などを話し合いそこでの意見をサービスの向上に具体的に活かしている。2ヶ月に1回(次回は9月10日)開催予定である。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	・市町村担当窓口へは、取り組みや実態の連絡をおこない、協力関係を築くよう努めている	市担当者には運営推進会議で意見交換や事業所の取り組みなどを報告し、協力関係を築くように取り組んでいる。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	・全職員が常に意識を持って日々のケアに取り組んでいる	運営者・管理者・全ての職員が身体拘束・言葉の拘束の内容とその弊害を良く認識しているが、立地環境の安全に配慮して午後のある一定の時間帯のみ玄関を施錠している。	利用者・家族・近隣の方がたと相談し、本人の思いや身体力を活かしながら鍵をかけずに安全に過ごせる工夫を重ねていかれることが期待される。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	・朝の申し送りやミーティングの中で全職員に防止の徹底呼びかけしている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	・制度について学ぶ機会がないので理解に乏しい		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	・契約時に詳しく説明をおこない、理解と同意を得るようにしている		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	・常に利用者の言葉に耳を傾けるようにしている ・家族にも面会時、呼びかけをおこない聞き取りに努めている	担当制をとっており利用者・家族に寄り添い話しやすい場面づくりを行なっている。連絡ノートで全職員、利用者や家族の意見や要望を共有し、それらを運営に反映させている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	・毎月のケアミーティングの中で機会を持ち、意見の反映を心がけている	毎月第四火曜日に定例会議を開催している。管理者は職員の意見や提案を十分に聴く機会を設け運営に活かしている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	・資格取得への理解と支援があり、向上心を持って勤務することができる		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	・研修等の内容は随時、全職員へ報告している ・月例の職員学習会を実施している		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	・年に数回、グループホーム協会の研修に参加し、交流している		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	・本人の心身の状態や思いを受け止め、本人が安心できる様な関係づくりに努めている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	・入居時に家族の求めているものを把握し、常に、話し合う機会をもつ様、心がけている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	・本人や家族が必要としている支援を実践し、必要なサービスの対応に努めている		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	・利用者に尊敬の念を持つことを職員が共有しており、和やかな生活を送れるよう努めている		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	・利用者の家族と連絡を密にし、利用者の様子をきめ細やかに伝えるよう努めている		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	・地域に暮らす馴染みの知人や友人に面会に来てもらったり、手紙のやりとりが継続出来るよう支援している	旅行や知人宅への訪問・馴染みの美容院などこれまで大切にしてきた人や場所への関係継続の支援に努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	・日常生活の中で利用者同士が会話を持ったり、関係が上手くいくよう職員が調整役となるようにしている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	・サービス終了後も継続的な関係が保てるよう心がけている		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	・毎日の生活の中で声かけや関わりを持つことで、本人の意向に沿うよう努めている ・意思疎通が難しい場合は、家族からも情報を得るようにしている	今までの生活のペースを大切に利用 一人ひとりに場所や時間を変えて思いや意向をきかせてもらったり、言葉や言葉に出来ない思いを日々の行動や表情から汲み取り、本人本位に検討している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	・これまでの生活状況の把握に努め、出来るだけホーム生活の中に取り入れ、継続できるようにしていく		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	・利用者一人ひとりの「出来ること」に注目し、生活の中で支援していく		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	・利用者や家族に思いや要望を聞いて反映できるように努めている ・定期的にカンファレンスやモニタリングをおこない、見直しに努めている	火曜日午前10時30分から全職員が意見を出し合いカンファレンス・モニタリングを重ね3ヶ月に1度介護計画の見直し、現状に即した介護計画を作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	・個別の記録を全職員で共有し、介護計画の評価や見直しに活かしている		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	・定期的な往診と受診付き添い支援をおこない、医療面での支援に取り組んでいる		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	・地域のボランティアへの協力の呼びかけをおこなっている		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	・協力医療機関があり、家族に契約時同意を得ており、支援している	本人と家族の同意のもと母体法人青木内科の院長が利用者全員の主治医になっている。24時間医療の体制もあり常に適切な医療を受けられるように支援している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	・協力医療機関より、医療面での管理や相談、助言等を随時連絡しおこなっている		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	・入院時に利用者の情報を医療機関に提供し、主治医や家族とも情報交換、相談に努めている		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	・重度化や終末期に向けた方針については家族と主治医が方針決定され、職員も共有し対応に努めている ・契約時に家族の意向や希望を確認し、納得頂きながら対応している	利用者一人ひとりのムンテラ(医師が・家族と担当者を交えて居室で重度化や急変時の家族の意向や希望を聞き取り事業所で出来ること出来ないことを十分に説明し方針を共有し、随時意思確認を行なっている)を作成し家族からとても感謝されている。重度化した場合における指針も作成されている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	・夜間の緊急対応のマニュアルは、周知徹底を図っている ・急変時の応急手当などの対処方法についての訓練は取り組んでいきたい		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	・地域との協力体制は難しい為、年2回の避難訓練など消防署の協力を得て、更に取り組んでいきたい	半年に1回消防署の協力を得て避難訓練を行っている。水や米なども備蓄している。	利用者一人ひとりの状態を踏まえて災害時の具体的な避難策を昼夜を通して検討し、地域の人々や他の事業所から協力を得られるように日頃から話し合い、地域の高齢者の避難場所として協力することも伝え地域と助け合う関係づくりが期待される。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	・声かけや対応については、利用者を傷付けることのない様、常に配慮し徹底を心がけている	全職員が利用者一人ひとりの人格の尊重やプライバシー確保について研修会や勉強会で具体的に確認している。また言葉や語調が誇りやプライバシーを傷つけることがないように対応している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	・利用者一人ひとりの希望や思いを聞き、職員の決めたことを押し付けることのないよう、配慮していく		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	・出来るだけ希望に沿うように心がけている ・個々の利用者のペースを保つことが出来る様、配慮している		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	・身だしなみが気になる時は、職員と一緒にこない、支援している		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	・個々の利用者の好みを把握し、職員で共有している ・副食の盛り付けや材料の刻みなど、一緒に行うよう支援している	1階と2階は献立も違いそれぞれ買い物の段階から利用者と一緒に考え一人ひとりの好みや力を活かしながら盛り付けや片付けなどを楽しみながら一緒に行なっている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	・食事量のチェックをおこない、把握に努めている ・テーブルの上に常にお茶と湯のみをセッティングし、自由に飲んで頂ける支援をおこなっている		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	・常に洗面所に歯磨きセットを設置し、自ら進んで口腔ケアが出来る環境づくりをおこなっている ・夕食後は入れ歯を預かり、消毒する支援をおこなっている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	・個々の利用者の排泄パターンを全職員が共有し、自立に向けた支援をおこなっている	トイレでの排泄やオムツをしないで住む暮らしを本人の自信に繋がる大切な支援として、利用者一人ひとりの排泄の状況やパターンを把握しさりげなく自立に向けた支援を行なっている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	・便チェック表で確認し、下剤の調節を支援している ・繊維質の多い食材や水分など多めに摂って頂くよう配慮し、自然排便を心がけている		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	・平等に入浴して頂けるよう支援している ・利用者が楽しんで入浴できる様、支援につとめている	希望があれば毎日の入浴も可能である。清潔な浴室で職員と会話を楽しみながらゆっくりと入浴できるように支援をしている。季節の菖蒲湯や柚子湯など工夫して楽しめるようにしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	・夜間不眠がある方については、日中の活動を促し、生活リズムを整えるよう努めている		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	・薬の内容を把握し、服薬確認と記録をおこない、不明な時は医療機関へ確認をおこなっている		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	・利用者の持っている力をに合わせて役割と楽しみ事の支援をおこなっている		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	・月2回の外出や買物などに定期的に外出し、心身の活性に努めている	天気の良い日には事業所周辺の散歩や隣接の老健での音楽療法士などのイベントに参加や外出に出かけたり、身体障害者乗馬クラブへの外出支援を行なっている。	



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	・少数の利用者は自己管理している ・お金を使える支援として、買物デーの実施の取り組みを進めていきたい		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	・一部の利用者は携帯電話を所持し、家族に電話をされている ・暑中見舞いや年賀状を書いて出して頂く支援をおこなっている		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	・リビングにソファや敷物を敷いて家庭の雰囲気を出したり、季節感を取り入れた壁面づくりを工夫している	ベンチのある玄関は明るく、季節の花が活けられ、誰でも訪問し易いように配慮されている。畳のコーナーもある共有空間に面したテラスには朝顔や季節の野菜が実り季節感を感じる工夫が随所に見られる。室温や光・テレビの音量・職員の声は適切で居心地良く過ごせる配慮がある。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	・居室でくつろいだり、リビングのソファなどに座られ、自由に過ごされている		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	・入居前から使用していた、なじみの家具などを置いて居心地良く過ごされている	居室はどの部屋も清掃が行き届きとても清潔である。利用者や家族の意向により使い慣れたものや好みのものを持ってきてもらい安心して暮らしてもらえるように配慮し、その人らしく居心地よい居室になるように工夫している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	・ホーム内は手すりが所どころに設置され、段差のないバリアフリーになっているので安全で自立に向けた生活が送れるようになっている		